

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
令和5年度 分担研究報告書
全国規模の肝炎ウイルス感染状況の把握及びウイルス性肝炎 elimination に向けた
方策の確立に資する疫学研究

DAA による HCV 駆除後肝発癌の実態と脂肪性肝疾患との関わりに関する研究

研究分担者 古賀 浩徳 久留米大学医学部内科学講座消化器内科部門・教授

研究要旨

九州地区では新規肝癌患者が増加している可能性がわかり、DAA による SVR 後の患者では、肝線維化・AFP 高値に加え MASLD も肝癌発生に独立して寄与することが明らかになった。

A. 研究目的

九州全体における新規肝癌発生数の動向を追跡するとともに、近年増加し、かつ SVR 後に増強する臓器内脂質異常（脂肪性肝疾患・線維化）と肝発癌との関わりを検討すること。

B. 研究方法

九州肝癌研究会の参加施設から提出された調査票を統計解析し、27 年間の追跡調査を行った。また、SVR24 を達成した 1,289 例の中で、HIS を用いて脂肪肝を定義し MASLD が SVR 後肝発癌に寄与するか否かを検討した。

（倫理面への配慮）

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（久留米大学）の倫理委員会で承認されている。

C. 研究結果

九州地区の新規肝癌患者数は 2019 年に 662 例であったが、2020 年 709 例、2021 年 701 例と再び増加に転じた可能性が示唆された。引き続き注視したい。また、SVR24 後にフォローされている 1,289 例を対象に Hepatic Steatosis Index (HSI) が 36 以上を脂肪肝と定義し MASLD 患者を定義したところ、肝硬変、FIB-4 index 高値、AFP 高値に加え、MASLD であることが SVR 後肝発癌に寄与することが示された。

D. 考察

HCV elimination の成果が、HCV 関連肝癌の発生を抑制していることが継続的に示された一方で、非ウイルス性肝癌患者の数は増加しており、このグループの数が全体の数を押し上げている可能性が示唆された。その中には、SVR 後に脂肪性肝疾患を有する一群がいることが強く示唆された。HCV 駆除後も代謝異常のフォローが重要と考えられる。

E. 結論

DAA による SVR 達成後には脂質異常をはじめとする代謝異常が肝発癌を促す可能性があるため、そのモニタリングや治療学的介入が重要になると考えられた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Sano T, Amano K, Ide T, Isoda H, Honma Y, Morita Y, Yano Y, Nakamura H, Itano S, Miyajima I, Shirachi M, Kuwahara R, Ohno M, Kawaguchi T, Tsutsumi T, Nakano D, Arinaga-Hino T, Kawaguchi M, Eguchi Y, Torimura T, Takahashi H, Harada M, Kawaguchi T; SAKS Study Group. Metabolic management after sustained virologic response in elderly patients with hepatitis C virus: A multicenter study. Hepatol Res 2023 Nov 17. doi: 10.1111/hepr.13993.

2. 学会発表

第 59 回日本肝臓学会総会
（肝臓・64(Suppl.1):A34, 2023）

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3.その他

なし